

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 小泉 いと子
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>
定価 10円



大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

大阪市教育委員会の教職員研修会

「特別支援教育実践講座」に招かれました

理事 松村 ユカ

7月23日(火)と7月29日(月)に弁天町にある大阪市教育センターにて、大阪市教職員研修として特別支援教育実践講座が開催され、講師として招かれました。対象者は、幼・小・中・高の全校種採用5年目教員、中学校特別支援学級専任採用2年目教員で、延べ700名近い参加がありました。

概要は「障がいのある子どもの困り感について、保護者の思いを通じて理解を深め、適切な対応方法を習得する」というものです。

そこで、我らが、大阪市手をつなぐ育成会の精鋭理事6名と啓発活動についての発案・企画担当の福島育成園支部会員の加藤さんと飯塚事務局長の8名で臨みました。



はじめに、小泉理事長から障がいのある子を持った親の思いと、その子の学校時代に担任の先生との連絡帳のやり取りが如何に重要だったかというお話をされました。次に『みんなちがってみんないい』と題して、主に知的・発達障がい(特に自閉症スペクトラム)について、障がいのイメージ、バリアフリーやユニバーサルデザイン等の身近な物から「冰山モデル」の話をしました。

また、紙芝居、寸劇、体験を交えて、その都度、「障がいの特性」と「対応の方法」を解りやすく説明しました。

紙芝居『「ゆうくん」とチューリップ』では、音・光・匂い・味・肌の感触等の「感覚過敏」とその逆の「無感覚」の障がいについて説明をしました。見通しができる視覚的援助の道具等の紹介や、主人公の「ゆうくん」に合ったルール作りをして学校生活がスムーズに送れる工夫の話等もしました。



寸劇では、『ケロケロ王国体験』と題して、王国からやってきた「ケロッピー君」と「ケロ子ちゃん」がケロケロと言いながら身振り手振りのジェスチャーで(ケロッピー君の無くした片方の軍手を探してほしい)初めてあった人をお願いをして、相手が何を言っているかを理解するという内容です。

まず、二人の先生にご協力いただいて、初めの経緯や内容がわからないように寸劇が始まる前に会場から退出してもらい、その間に寸劇を始めます。途中で、先ほど退出した先生に一人ずつ戻って来ていただきステージに上がってもらいます。そして、いきなり続きの寸劇を始めます。

その時の先生のリアクションですが…もはや、何が何だかわからない状態でケロケロと言われ続け、一人の先生は正解(探してほしいと言った片方の軍手)が最後までわからず、「ケロッピー君」と「ケロ子ちゃん」